

これまでの検討内容

運営・施設部会の開催状況

第1回 (令和5年10月20日)	部会の進め方と、 現病院の施設・設備の現状と課題への対応 議事 (1) 部会長の選出について (2) 運営・施設部会の進め方について (3) 福岡市民病院における施設・設備の現状と課題への対応
第2回 (令和5年12月8日)	204床の医療機能に必要な規模(床面積)と現地での整備 の検討とりまとめ 議事 (1) 福岡市民病院の現地での整備について (2) その他
病院事業運営審議会 (令和6年2月8日)	中間報告(福岡市民病院の現地での整備について)
第3回 (令和6年3月11日)	土地の選定で考慮すべき事項の整理 議事 (1) 令和5年度第2回福岡市病院事業運営審議会での審議について (2) 土地の選定で考慮すべき事項の整理 (3) 今度の運営・施設部会の進め方について
第4回 (令和6年5月20日)	土地の選定 議事 (1) 土地の選定 (2) 今後の運営・施設部会の進め方について
病院事業運営審議会 (令和6年6月24日)	中間報告(現地以外での整備について)
第5回 (令和6年9月27日) ※医療機能部会合同開催	候補地の評価方法 議事 (1) 前回審議会(6/24)での審議内容等 (2) 増床に向けた取組みの状況 (3) 候補地の評価方法 (4) 候補地の評価(案)
第6回 (令和6年11月26日)	候補地の状況等 議事 (1) 候補地の状況等について

【参考1】運営・施設部会の概要

所掌事務 福岡市民病院の運営及び施設のあり方について検討し、福岡市病院事業運営審議会(以下「病院審議会」という。)に対し意見報告を行う。

任期 病院審議会への意見報告まで

委員構成

- 地域医療構想について専門的知見を有する医療関係者 ※◎は部会長

福岡市医師会	参与	平田 泰彦	◎
九州大学	副学長	赤司 浩一	
純真学園大学	副学長	森田 茂樹	
福岡大学医学部	教授	藤田 昌樹	
- 医療経営について専門的知見を有する学識経験者

九州大学	名誉教授	尾形 裕也
九州大学大学院医学研究院	准教授	福田 治久
- 建築分野について専門的知見を有する学識経験者

九州大学大学院人間環境学研究院	准教授	志賀 勉
-----------------	-----	------
- 福岡市立病院機構の代表者

福岡市立病院機構	理事長	堀内 孝彦
----------	-----	-------

前回までの増床の検討内容

(1) 増床の検討開始

医療機能部会報告書(R5.3)において、増床を必要とする「新たな取組み」が示されている。また、同報告書においては、必要な医療機能の強化を図り、役割を果たすためには、**増床の検討が必要**とされていることを受けて、増床の検討を開始した。

【参考2】増床を必要とする新たな取組み [医療機能部会報告書(R5.3)より]

- 高度救急医療 診療科の設置などによる外傷対応能力の強化
- 災害医療 診療科の設置などによる外傷対応能力の強化
- 高度専門医療 SCU(脳卒中集中治療室)の規模拡大、手術室の増などによる整形外科患者への対応
- 地域医療への貢献と医療連携の推進
 - ・透析：バスキュラーアクセスセンターの設置
 - ・[病床増を伴う]市内に不足する医療への新たな対応

【参考3】病床規模について [医療機能部会報告書(R5.3)より]

新型コロナウイルス感染症を超えるような未知の感染症の急速な拡大に対応する感染症医療や、多くの患者に対応し専用の場所や設備を要する災害医療の提供、また市民病院の強みである脳卒中や循環器、脊椎などの高度専門医療のさらなる強化といった新たな取組みを行っていくためには、現在の204床という病院規模では厳しく、限られた医療しか提供できない。

そのため、今後、市民病院が必要な医療機能の強化を図り、その役割を果たすためには、増床や増員、施設・設備の拡充の検討が必要である。

(2) 増床にあたって

① 現状

福岡市が属する福岡・糸島保健医療圏は病床過剰地域となっており、単純な増床を行うことはできないため、市民病院の増床については、同保健医療圏内の**医療機関との再編等による増床**を検討した。

【参考4】基準病床数及び既存病床数 [福岡県保健医療計画より]

福岡県保健医療計画	病床種別	保健医療圏	基準病床数	既存病床数	充足率
第7次(平成30年度～令和5年度)	一般・療養病床	福岡・糸島	13,840床	18,809床	136%
第8次(令和6年度～令和11年度)			18,080床	18,802床	104%

② 公立病院経営強化ガイドライン等

再編等の相手方(医療機関)については、医療機能部会報告書で求められている役割・機能や「公立病院経営強化ガイドライン」の趣旨等を踏まえて探すこととした。

【参考5】公立病院経営強化の基本的な考え方 [公立病院経営強化ガイドラインより]

- 持続可能な地域医療提供体制を確保するためには、限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用することが必要である。
- そのためには、公立病院が担うべき役割や機能を改めて見直し、明確化・最適化した上で、病院間の連携を強化する「機能分化・連携強化」を進めることが必要である。
- その際、連携強化の具体的な取組みとしては、公立病院同士のみならず、公的病院、民間病院、診療所等との間も含め、必要な取組を検討すべきである。

運営・施設部会中間報告

I 増床に向けた取組みについて

1 再編等の相手方候補の選定

(1) 再編等の相手方候補

再編等の相手方については、(2) ①再編等の手法、②相手方選定の視点を踏まえ、**国家公務員共済組合連合会千早病院**を相手方の候補とした。

(2) 検討の経緯

①再編等の手法

再編等の手法については、国が事例として示している「**他の医療機関との統合**」「**医療機能の分化による病床再編**」「**新たな法人の設立**」などが考えられる。

まずは、「**他の医療機関との統合**」について検討を行うこととした。

②相手方選定の視点

視点1：医療機能の維持

医療機能部会報告書において、「高度救急医療」、「高度専門医療」、「地域医療への貢献と医療連携の推進」については、引き続きこれに取り組むこととされていることから、再編等の相手方は、現市民病院と同様に**一般病床（高度急性期・急性期）を有している医療機関**であることが望ましい。

視点2：既存利用者への影響等

現在、市民病院を利用している患者に加え、相手方病院を利用している患者への影響も考慮する必要があること、また、医療機能部会報告書において、現在の医療提供体制を維持していく必要があるとされていることから、再編等の相手方は、市民病院が所在する**博多区及び隣接区の医療機関**であることが望ましい。

視点3：公的医療機関等

公立病院である市民病院は、地域医療構想の実現に向けた取組み（病床の機能分化・連携の推進）を行う必要があるため、再編等の相手方は、同様の使命を持つ、**公的医療機関等**であることが望ましい。

視点4：築年数（施設・設備上の課題）

築35年の市民病院は施設・設備の狭隘化・老朽化が課題となっており、今後、建替えを予定していることから、再編等の相手方は、市民病院と同程度またはそれ以上に築年数が経過し、**施設・設備上の課題を有している可能性のある医療機関**であることが望ましい。

2 再編等に向けた協議

今後、国家公務員共済組合連合会千早病院と**再編等に向けた具体的な協議を開始すること**としている。

なお、再編等により期待される効果は以下のとおり。

<再編等により期待される効果>

○公的医療機関等の役割と医療の継続

両病院とも公的医療機関等であり、地域医療構想の実現に向けた取組み等の**公的医療機関等に求められる役割**や、医療機能部会報告書で示されている**市民病院の役割と医療機能及び千早病院が現在提供している医療**に引き続き取り組むことができる。

○医療機能や経営の強化

医療機能部会報告書で示されている「**新たな取組み**」による**医療機能の強化**や「**感染症医療**」、「**災害医療**」への十分な対応ができる。また、病院規模が大きくなる（最大379床）ことで、病院経営上のスケールメリットが発揮しやすくなるため、**現病院と比べ経営の安定化**が見込まれる。

○既存利用者への影響

新病院の整備場所については、現在、福岡市病院事業運営審議会において、博多区又は東区内で検討しているところであるが、いずれの土地であっても両病院の現在地から比較的近い場所となることが想定されるため、**既存利用者への影響は少ない**と思われる。

○維持管理費の削減

新病院の建設により、施設・設備が刷新されることで、現病院の大規模修繕が不要となり、**維持管理費の大幅な削減**に繋がる。

○医師の働き方改革への対応

共通する診療科の統合や医療機能の整理等によって、九州大学医局等へ依頼する派遣医師数の見直しが図られ、17年度末を目標とされている**医師の働き方改革**に対応しやすくなる。

【参考6】市民病院と千早病院の概要

	福岡市民病院 [公立病院]	千早病院 [公的医療機関等]
開院日	平成元年5月（築35年）	昭和40年12月（築59年）
病床数	204床（一般200、感染4）	175床（一般175）
場所	博多区吉塚本町13-1	東区千早2-30-1
主な認定	・救急告示病院（二次救急） ・地域医療支援病院 ・第二種感染症指定医療機関	・救急告示病院（二次救急）
診療科	20診療科	12診療科

運営・施設部会中間報告

II 候補地の評価方法

1 評価・比較項目

多角的、総合的な視点で、市民病院にとって最適な整備場所を選定するため、「①土地の状況・活用性」「②医療環境への影響」「③利便性」「④救急・災害対応」「⑤経済性」の大項目ごとに、各候補地の評価・比較を行う。

2 評価方法

(1) 配点

大項目の配点は、下表のとおりとする。(合計100点)

①土地の状況・活用性	②医療環境への影響	③利便性	④救急・災害対応	⑤経済性
12.5点	25点	25点	25点	12.5点

(2) 計算方法

- 「小項目の評価基準」に基づき、小項目ごとに1点～3点を付ける。
- 小項目得点率(小項目合計得点/満点)に、大項目の配点(上記(1))を乗じて大項目の得点を算出する。
- 大項目の得点を合算して、合計得点を算出する。

(3) 総合評価

合計得点から、候補地ごとの総合評価を決定する。

合計得点	70点以上	50～69点	49点以下
総合評価	◎(適)	○(可)	—

<評価・比較項目>

前回中間報告		今回		評価の考え方
大項目	小項目	大項目	小項目	
①土地の状況・活用性	敷地面積	①土地の状況・活用性	敷地面積	基礎データのため評価対象外
	用途その他制限		用途その他制限	
	建蔽率/容積率		建蔽率/容積率	
	土地活用可能時期		土地活用可能時期	現病院の狭隘化、老朽化の状況を鑑み、早期活用ができるかという視点で評価
	将来の拡張・建替え、災害等に必要敷地スペース		将来の拡張・建替え、災害等に必要敷地スペース	将来の機能拡張や建替え、災害対応などを想定した十分な広さの敷地面積が確保できるかという視点で評価
②医療環境への影響	現地からの直線距離	②医療環境への影響	現地からの距離	既存利用者への影響という視点で評価
	周辺医療機関 救急告示病院		周辺医療機関 救急告示病院	市民病院として求められる役割(高度救急医療・災害医療・高度専門医療)を果たすことができるか、という視点で、候補地周辺のそれぞれの役割を担っている他の医療機関への影響を評価
	災害拠点病院 主な病院		災害拠点病院 主な病院	
③利便性	最寄り駅	③利便性	最寄り駅	最寄りの鉄道駅からの距離を評価
	最寄りバス停		最寄りバス停	最寄りのバス停からの距離を評価
	自動車交通アクセス		周辺道路の状況	病院敷地への自動車での進出入の容易さを評価
	都市高速出口		都市高速出口	救急車の搬送時間への影響という視点で評価(③利便性から④救急・災害対応に変更)
④救急・災害対応	周辺住環境	④救急・災害対応	—	周辺住環境については、今後の開発等により変化する可能性があり、現段階で適正に評価をすることが困難なため、評価項目から削除 ※救急の観点は「都市高速出口」で評価
	—		緊急輸送道路	災害時の物資搬入や救急車両の走行の容易さを評価
	災害危険度		災害危険度	ハザードマップにより敷地の安全性を評価
⑤経済性	土地購入費	⑤経済性	土地購入費	現在の路線価を用いて評価
	建築工事費		建築工事費	同じ建物を建てる場合、ある程度の整形地であれば、更地からの建築工事費に差は出ないため評価対象外
	造成工事の必要性		造成工事の必要性	費用負担が大きい造成工事の必要性の有無を評価

運営・施設部会中間報告

Ⅲ 候補地の状況と今後の対応

1 候補地の状況

<位置図>



<候補地概要>

		かしいかえん跡地	香椎浜ふ頭緑地	箱崎中学校
場所		東区香住ヶ丘7丁目	東区香椎浜ふ頭1丁目	東区宮松4丁目
敷地面積		約120,000㎡	約45,000㎡	約30,000㎡
用途地域 その他制限		第一種住居地域 第二種20M高度地区	第二種住居地域 第二種20M高度地区	第一種住居地域 第二種20M高度地区
建蔽率/容積率		60%/200%	60%/200%	60%/200%
土地の状況		○地権者によって社会情勢や周辺環境等を踏まえ土地の利活用の検討が行われている状況であるため、現時点で購入の可否については未定。	○港湾地域・住宅地域間の緩衝機能や修景機能等を目的とした緑地。 ○病院建設には港湾計画の変更が必要であるとともに、地域住民や関係機関との調整が必要となるため、活用可能時期は未定。	○九大箱崎キャンパス跡地への移転が計画されている。 ○令和9～10年度に新校舎建設工事が行われ、移転後に旧校舎解体工事や区画整理工事等が5年程度実施される予定であるが、終了時期は確定していない。(活用可能時期未定) ○区画整理事業により敷地面積は減歩される。
医療環境 への影響	現地からの距離	8.0km	7.7km	3.5km
	周辺の主な医療機関	・福岡和白病院 ・福岡輝栄会病院	・福岡和白病院 ・福岡輝栄会病院	・福岡輝栄会病院 ・九州大学病院 ・千鳥橋病院 ・原三信病院
利便性	最寄り駅	・西鉄・香椎花園前駅 ・JR・九産大前駅	・西鉄・香椎駅 ・JR・香椎駅	・西鉄・地下鉄・貝塚駅 ・JR・新駅(開業予定)
	最寄りバス停	・香椎花園	・香椎浜北公園前	・月見町
救急・ 災害対応	最寄り都市高速出口	・香椎出口	・香椎浜出口	・貝塚出口
	災害危険度	・洪水：想定なし ・高潮：3.0m以上 ・揺れやすさ：6弱	・洪水：想定なし ・高潮：0.5m以上3.0m未満 ・揺れやすさ：6弱	・洪水：0～2.0m、一部河岸侵食 ・高潮：1.0m以上3.0m未満 ・揺れやすさ：6強

2 今後の対応

①活用可能時期

○候補地(3か所)は、現時点でいずれも活用可能時期が未定である。

②早期整備の必要性

○新興・再興感染症や激甚化する災害に対応した施設整備が喫緊の課題となっている。

○市民病院も再編等の相手方候補である千早病院も、施設・設備の狭隘化・老朽化が課題となっている。

今後の対応

○現在の候補地(3か所)について引き続きヒアリング等を進めるとともに、新たな候補地となり得る土地を探す。

○新たな候補地については、増床に向けた取組みの状況から新病院の病床規模を300～350床程度と想定し、敷地面積18,000㎡以上の土地を探すこととする。

<新たな候補地の敷地面積>

○延床面積：新病院で想定される病床規模を最大350床程度とした場合、延床面積は35,000㎡程度必要

○敷地面積：福岡市において病院の建築が可能な用途地域における一般的な容積率200%から、延床面積35,000㎡の建築が可能な敷地面積は18,000㎡以上